

オスカー フーズ 外食で中東進出

サウジに日本料理店

茶室設置
和風前面に
合併企業が運営

食品の製造販売などを手掛けるオスカーフーズ（本社名古屋西区堀越町3、鈴木信輝社長）は、中東・サウジアラビアの首都リヤドに日本料理店を出店する。店舗の建設費用はサウジアラビアの現地企業が全額出資し、店舗設計と企画を同社が担当。店舗運営は同社とサウジアラビアの現地企業が共同出資して設立する合併会社が担う。早ければ来年度にも店舗建設に入る。

（真野敏幸）



鈴木信輝社長

店舗の収容人数は最大2000人。年間で約2億5千万円の売り上げを計画している。店舗デザインは、川島義信アサイン事務所（名古屋市中区大須）と共同で設計。切り絵をモチーフにしたドアや、ニシキゴイが泳ぐ池、茶室を設けるなど、日本要素をふんだんに取り入れる。提供する日本料理は、天ぷらや寿司、鉄板焼き、焼き鳥など幅広い。中東を含むイスラム圏の人口は約17億人。食料関連市場だけでも160兆円に上るとい

日本料理店の完成
予定図



アジアに進出する日本企業は多いが、中東に進出する企業は極めて少ない。イスラム教は豚とアルコールの飲食が禁止されているなどの食文化の違いが日本企業の進出を阻んでいるように見出し、中東進出を決めた。鈴木社長は「食を通じて文化の懸け橋になりたい」と意気込む。現在、店舗設計やメニューなど出店計画書を詰めており、早ければ来年度にも建設に着手する。日本料理店の中東進出を足がかりに、将来的には中東で食品製造工場などを建設し、業容拡大も検討する。

る。中東を含むイスラム圏の人口は約17億人。食料関連市場だけでも160兆円に上るとい

う。ただ、中国や東南